

令和元年度 第1回地域創生戦略会議 議事要旨

日時：令和元年8月23日（金）15:30～17:30

出席者：別紙参照

<兵庫県地域創生戦略の実施状況（平成27年～平成30年）（案）について>

（委員）

- ・最近、引きこもっている人が犯罪を起こすことが多いと思っている。このような人たちに、結婚するかどうかを含めて、社会に出てもらうようなことを考えていく必要がある。
- ・引きこもっている人の割合は他府県と比べてどうなのか。市町でも違うのではないかと。機会があれば教えていただきたい。
- ・昨年も指摘したが、20代の女性の流出が一番の問題だ。他府県で就職しているからだという説明が昨年あったが、そうであれば、男性の方が流出率がおそらく高いだろう。例えば、三井住友銀行は東京本社だから、姫路支店に勤務していても、兵庫県から流出したことになり、住民票ベースでの流出者数との間に差が出る。難しいかもしれないが、その辺りは見てほしい。
- ・兵庫県は女子大、女子高が結構多い。個人情報等に抵触する面があるが、卒業して、どのくらいの人が流出しているのかというデータが取れば、戦略にも利用できるのではないかと。

（委員）

- ・今まで、子育て支援を担ってきた方がかなり高齢化しており、後継者は、なかなか見つからないと言う。地域のあり方が変わってきているのと、主婦がいなくなってきたということが非常に大きく、なかなか構造的に対応が難しい。真剣に考えないと、地域の子育て力が下がる恐れがある。今のところは、何とか第一線の方が頑張っている状況であると感じている。
- ・県も子育て支援で対応できる部分はかなり頑張っているが、結局は働き方改革ということにつながるのではないかと。子育てしやすい働き方や男性の子育てをいかに促進するか、時短を含め、働き方が変わっていかないと難しい。
- ・兵庫県で職住近接を進めることができれば、かなり若者が住みやすくなる、子供を育てやすくなると思う。
- ・保育について、新しい制度を組み合わせるという形なので、非常に複雑化している。必ず保育が受けられるという保証がない中で、働きながら子育てができるのかという不安を抱えながら出産する決意をしなければならない。
- ・少しでも保育所に預ける可能性を高めるために、子供を産む月を選んでいく傾向があり、一定の期間、3ヶ月位に出生が固まっているという現象がある。そんなことで子供を産む時期を決めないといけないのは本当におかしいと思う。
- ・西宮市は子育てに熱心な市なので、保護者の方は保育園に入れるために働き方を本当に工夫されている。制度を研究して対応できる方はよいが、できない方は仕事を辞める、または子供を持つのを諦めるなどの対応を取っている。これも本来

のあり方ではない。県だけでできるわけではないが、誰もが安心して使える制度に設計し直す必要があると理解している。

- 女子学生が兵庫県から流出するのは女性の働く場が少ないということだが、その一つとして、神戸の地盤沈下がかなりあるように感じている。阪神・淡路大震災からの復興に取り組んでいる間に、大阪では再開発により次々と新しいプロジェクトが進んでいる。他の県庁所在地でも、新しい事業やプロジェクトが駅前から見えてすぐにわかるようなレベルで進んでおり、イメージアップを図っている。神戸市は、なかなかそういうことができず、女性が神戸市に就職する道が少なくなっている。華やかだった頃の神戸市を何とか取り戻せないものか。

(委員)

- 子育て環境の制度、仕組みが様々と言うご指摘は大変重要だと思う。ニュージーランドの議長が赤ちゃんを抱えて職務をこなしたということが報道されていたが、先日、ニュージーランドに行った時、日本でベビーバギーを電車に乗せるときに蹴飛ばされるなどのトラブルが起きるということをお話したところ、びっくりされた。ニュージーランドでは、公共交通機関にベビーバギーが乗ってきたら、最優先で、席や道を譲るということを聞いた。国全体がそういう雰囲気なので、議長の話は、ニュージーランドでは不思議でもなんでもないのだろう。
- もし、兵庫県の議長がスタンドプレイでもいいので、あれぐらいのことをしたら、兵庫県は若い人に優しいなということになりはしないかという気がする。

(委員)

- イメージづくりは大事だと思うので、ぜひお願いしたい。兵庫県は子育てがしやすい、子供を職場に連れて行くことも可能だというイメージがあれば、人が集まってくる。ただ、実際に企業が取り組まないと看板倒れになってしまう。イメージと実質の両方が必要かなと思う。
- 日本はニュージーランドなどと比べると、はるかに子育てしにくい国であると思う。それを変えるためには働き方や保育制度を変えないといけない。電車にベビーカーが入ってきた時に席を譲れるような気持ちのゆとりがなくなってしまった社会ではないかと思う。

(委員)

- ご指摘のあった神戸の経済力は、人の動きともかなり連動してきて、経済界の方とか企業経営者の話を聞くと、明らかに状況は悪化していると思う。

(委員)

- 報告書のまとめ方が非常に分かりやすくなった。事務局にお礼申し上げる。
- 一つに気になっているのは、重点指標と政策アウトカム指標の関連性がものすごくわかりにくい。重点指標がDであれば、施策を政策アウトカムで評価し、その評価に対してもう少し論評されているとわかりやすい。
- 神戸は日本の中で思っているほど知られていない。特に観光都市なのに、タクシーが良くない。地方都市でも、観光を意識して非常に良くなってきている。

- ・福岡とか博多を見ると活力がある。福岡は九州の東京と言われているが、兵庫と比較・分析することも必要ではないか。
- ・民間でインターンシップや就職説明会を行っているが、県や市が同じ時期に行くと、みんな県や市に行ってしまうとの声を聞いているので考えてほしい。

(委員)

- ・「第一回兵庫県地域創生戦略会議企画委員会」で協議した内容を説明する。企画委員会は、30代から40代の若手が中心となり活発に議論している。企画委員会の下には、「若者定着・還流部会」「魅力あるまちづくり部会」「未来の担い手育成部会」がある。部会の成果も踏まえて報告したい。
- ・次期戦略で目指す姿について、「地域の元気の戦略指標がGDPとなっているが、住民にとってわかりにくいのではないか」「住民にわかりやすい指標があれば良い」「KPI等の数字は結果でしかない。豊かな暮らしをつくることが大事で、その結果、数字が良くなればよいのではないか」との指摘があった。戦略の目標は、住民に地域を自分事として考えてもらうようにもっていくことが重要ということだ。
- ・また、「東京対兵庫という枠組みでは難しいが、東京対関西、関西の中の兵庫の位置づけを考えた上で対抗軸を設定することが有効ではないか」との指摘があった。
- ・人口を確保することも大事だが、人口が減少しても豊かな暮らしをつくることについて、委員の皆さんは考えているようだった。「豊かな暮らしは、それを支える個性ある地域の自立が背景にある。それをつくる、県民を巻き込むような施策や指標を考える必要がある」との指摘があった。
- ・若者の地元定着について、「グローバル化やITの進展により、本来ローカルで活躍できる若者が東京に流出するのは、地元企業を知らないからだ」という意見があった。一方で、「兵庫は職の多様性が大きい。子供に多様な職業を体験させることができるというのは兵庫の強みだ」という意見があった。
- ・子供へのふるさと教育は、「地域巻き込み型で、中長期的に取り組むことで効用を生むのではないか」「若者の中には給与が低くても自分がしたい仕事を複数行い、楽しく暮らしたいという人がいる。こうしたことを企業が認める仕組みがあれば良い」「働き方やライフスタイルの多様性が若者に広がっており、対応が求められている」との指摘もあった。
- ・さらに、東京で人間関係に失敗して地元に戻ってくるような若者を引きこもらせるのではなく、社会が受け入れて復帰につなげるような体制をつくる必要性についても指摘があった。
- ・各部会でも、「地元企業の情報が届かない」「ネットで検索しても地元の情報が届かない」「地域への愛着の醸成が重要で、小さい頃からの教育が必要だ」という意見があった。
- ・整理すると、若者の地元定着には、兵庫県の強みとして職の多様性があり、個性のある地域がその背景になっているのではないか。地域の自立を求めていくということが重要なポイントになるだろう。職の多様性により若者の多様なライフスタイルに対応することができる。
- ・子供から新卒までの世代を地域の中に巻き込み、地域の情報を発信するような事業を中長期的に取り組む必要がある。特に、地域への愛着の醸成に関しては、歴

史文化ということがよく言われるが、それ以外に、産業の分野に関する情報等も発信していく必要があるのではないかと。

- 地域特性に応じた取組では、地域への愛着という所属意識が大切で、兵庫県という単位では少し広すぎるのではないかと問題意識がある。地域の特性を考えた区分が大切で、それに応じた政策が必要だ。地域の文化や気候、住民の感覚に根ざした区分であれば心にストンと落ちてくるのではないかと。
- 県民局のような行政圏域を超えるような形での強みの発信の仕方が求められているのではないかと。その時に地域区分をどう考えたらよいかという問題意識を委員の皆さんがもっていた。
- 「魅力あるまちづくり部会」では、「各地域の中心性を見出し、そこを良くして他の地域に波及させるという考え方が大事ではないか」という意見があった。
- また、「中心性のあるところを中心に、地域の人々が愛着を持ち一体感を感じられるような区分を考えていく必要がある」「地域にあるものでつくり、地域で雇用を生むローカル経済圏をつくり、ブランド化していくことを考えるべきだ」という指摘があった。「全ての地域に同じような政策展開というのは良くないのではないかと」「地域差がなくなっている」というのも同様な指摘だと思う。
- まとめると、県民の腑に落ちるような地域区分を考える必要があるのではないかと。ある委員からは、「旧五国をベースに地域区分を考えていくべきではないか」という話があった。具体的には、「地域毎に中心となる都市があるので、そこから広がるローカルな経済圏域を考える必要がある。その時に、中心性はどうか」という意見については、「暮らし、産業、観光という視点から圏域を考えてはどうか」という提案もあった。更に、「行政圏域を超えた強みを発揮できる戦略の枠組みを考える必要がある」との指摘もあった。
- 女性の活躍については、「まだまだ女性が活躍できていないので、男女共同参画のメッセージを送り続ける必要がある」「都市部では比較的専業主婦が多いので、潜在的に人材はいる」「家族観が強すぎると出生数が下がる傾向がある。未婚や離婚する人が多い中、多様な家族のあり方が既に広がっているため、受け入れる風土をつくってはどうか」との指摘があった。
- 女性の働き方についても意見があった。「女性個人のライフプランに応じたライフスタイルが必要」「働き方のバリエーションを企業側からも提供してもらうことが大事」「在宅勤務や週2、3日の勤務、NPO法人勤務など色々な働き方があるので、安易に定義づけるだけでなく、多様性を認める必要がある」との話があった。
- 受け皿となる企業側への働きかけも重要だ。地方には大卒に見合うキャリアがないと思われていることを問題視しなければならないという観点もある。
- 再整理すると、一つは、就職、結婚、それに伴う移住、子育てといったライフステージに対応した働き方の多様性が必要となる。先ほど申し上げた兵庫県の強みである職の多様性が対応していくのではないかとということだ。特に「女性のライフステージがチェンジするときの選択肢の広さが重要である」との意見もあった。
- さらに、「大卒の方がキャリアと感ぜられるような地域の職の可能性を広げていくこと」「多様な家族のあり方を理解し、地域での受け入れ、受け止めが求められているのではないかと」とのご指摘をいただいた。
- 外国人受け入れについては、「労働力不足だからといって、短絡的に移民を受け入

れると孤立した集団をつくってしまう」「留学生や高度人材など様々なので、外国人を一括りにするのはよくない」「留学生に兵庫への愛着を持ってもらおうと、世界中に兵庫の関係人口が増える」との指摘があった。

- また、「留学生に聞くと、『兵庫は外国人にとって住みやすい』と言っていた。こうした財産を生かせればよい」「神戸は国際化の経験があり、国際性へのポジティブな感覚がある」とのご意見や、「地域の方々は、外国人を、そのうち帰国する人との認識を持っており、信頼関係が築きにくい」「関係性づくりの最初は、趣味や文化活動といった楽しみの分野から広げる可能性がある」との指摘があった。
- まとめると、外国人、特に留学生は関係人口を世界に広げてくれる人材である。兵庫、神戸は外国人の受け入れの経験という強みがあり、それを生かしていく必要がある。特に、多様な側面を持つ外国人と地域との信頼関係を構築することが大変重要であるという指摘だった。
- 2回目の担い手部会で興味深い議論があった。「地域の担い手不足と言われているが、多自然地域では、継続的な事業をする場合、実行力はよいが企画力に欠ける」との指摘。そして、「企画力に長けたクリエイティブな人、あるいはそのネットワークが地域と信頼関係のある個人や中間支援組織と連携して、地域の企画力の向上を図ることが有効ではないか」という議論があった。地域再生大作戦のアドバイザー派遣の仕組みや大学連携の仕組みの深化や展開という中で、色々な方向性が見えてくるのではないかと感じた。
- 若者、仕事、兵庫県の強みといった議論を、各部会、委員会の中で詰めているところだ。地域創生の基本理念である「人口が減少しても地域が活力を持って自立し、県民が将来への希望を持てる兵庫の実現」に向けた話し合いが続いている。

(委員)

- 20代の流出が一番の問題とのことだが、30代、40代が委員となっている部会でどこまでフォローするか。続けて考えていき、対策ができればよいかと思う。
- 地元への就職希望を持つ大学生が6割と、兵庫にはポテンシャルがあるが、それを取りこぼしているのは残念だ。インターンシップやトライやるウィークなど、若い人たちの就業体験をサポートしているが、地元企業も自分のこととして考えなければならぬと改めて思った。
- 地域が活性化すれば、地元企業は当然潤う。地元の元気づくりも企業が積極的に考えなければならぬと思う。
- それともう一点、超高齢社会ということで、介護で休暇を取る人が増えるなど、会社側も従業員も色々な事前準備をする事が生じてくる。働きやすさがないと安心して暮らせないので、その対策も必要だ。
- 知事の挨拶の中で、兵庫に行くのが楽しいということを目指すとの話があったが、兵庫に行けば健康になれるというような感じで何かできないか。若者にはピンとこないかもしれないが、健康を幅広く捉えて、スポーツとか文化とか精神的な面でも、兵庫にいるのが楽しいというイメージを定着させて、地域や人の結びつきやコミュニティの活性化につながるような良い循環ができればいい。

(委員)

- ・地域には、人間性というか歴史文化というか、何か雰囲気がある。丹波は丹波特有の雰囲気があるし、淡路は淡路の雰囲気がある。歴史文化や地域の人々の雰囲気を我々がどのように捉え、どうしていくかが気になる。丹波新聞が90周年の時に、丹波新聞の記者が一番地域を理解していると褒めた原稿を書いたが、その時に地域理解というテーマを使った。地域を理解するのは誰なのかということを考えていく必要があると思った。
- ・淡路に「ハタラボ島協同組合」という団体があるが、民間企業で働いていた人がIターンで来ており、好きな時間に仕事しているが、良い仕事をしている。兵庫県でも、水面下で頑張っている人を紹介したら、このような働き方もあるということがわかってくる。このようなことを、うまく人口増につなげられないか。
- ・私の専門分野では、バブル崩壊前には関西に十数社の民間企業があったが、現在は神戸に1社しかないので、学生が相談に来ても関東圏の会社しか紹介できない。起業などにより受け皿となる会社をつくっていくのも大事という気がしている。
- ・この会議は「地域創生戦略会議」だが、そろそろ「地域創生戦略会議」もいるかなと思う。私の専門分野では、最近、タクティカル・アーバニズムとかプレスメーカーキングといった、まずは戦術的にやってみて、良かったら継続するという動きがアメリカなどで出てきた。戦略の中で、一部戦術的に動くことをどのように位置づけるかということを議論したらよい。

(委員)

- ・トライやるウィーク等で就労経験を積み、それを活かすことを考えてはどうかとの発言があったが、若者の定着だけではなく産業集積も含めて必要性を感じる。
- ・産業活性化センター等で既に取り組んでいるとは思いますが、産業が集積しているメリットを活かし、異業種交流やコラボレーションを促進するような場が必要だ。
- ・起業が進まない中で、起業者が業種等を超えて淡路の夢舞台に集まり交流を行ったところ、新たな発見があり、次につながるよい場になったという報道があった。
- ・兵庫の強みとかブランド力をどうイメージアップするのか。民間から広報の方を採用したということで、少しずつ力を入れていると思うが、ポイントを絞るといふ部分では簡単ではないとは思ふ。こうした工夫を継続することが必要だと思う。
- ・時間外労働の上限規制について、本年4月から大手が、来年からは中小企業が適用となる。長時間労働や同一労働同一賃金、年休取得促進は、子育て支援などに関連するという話もある。とりわけ、中小企業に働き方改革をどう根差していくのか。中小企業の経営者は、慢性的な人手不足で働き方改革どころではないと言っている。だからといって働き方改革を横に置くと、むしろ人が来てくれなくなり、経営リスクにもなる。どのように法改正の趣旨を周知徹底し、アドバイスや支援していくのかということも大事だ。
- ・労働局が力を入れて周知していると思うが、多くの中小企業に対しては難しい。我々も、労働組合、労働団体という立場で、労働団体のない事業所にも支援やアドバイスをしている。現状、中小企業の経営者は二極化している。働き方改革を真剣に進めている方は3割くらいで、7割くらいは、それどころではないという感覚ではないかとの指摘している社労士もいた。いずれにしろ、働き方改革を定着させることが、若者が兵庫で働く環境整備にもつながると思うので、そのよう

な視点も入れてはどうかと思う。

(委員)

- ・ 県内企業への就職促進ということで、高校生や中学生に優秀な地元の企業を見てもらおうと、但馬や福崎などで産業展を開催している。
- ・ 昨年、宍粟市商工会が定住促進と地元企業の魅力を知ってもらうため、働きがいや時間的な余裕、経済的な面で、都会で働く場合と宍粟で働く場合の比較をした高校生向けの冊子をつくった。
- ・ 優秀な企業がありながら、良さが理解されていないことが若者の流出につながっているのではないか。ついては、産業未来展を県下一本で考えたかどうか。
- ・ 働き方改革では、商工会関係は中小零細が多いため、非常に苦慮している。当団体でも勉強会をしているが、非常に厳しいということは間違いない。
- ・ 事業承継に県下の商工会をあげて取り組んでいる。今年度から県がはじめた事業継続支援事業では、29件、金額にして5千6百万円の申請があった。全体で1億円の予算があるので、有効に利用しながら事業承継を進めていきたい。

(委員)

- ・ グローバル人材の確保が課題だ。せっかく兵庫、神戸に国際化されたイメージがあるので、例えば、教育機関の充実や企業の誘致などに重点的に取り組めば、より多くの人材が集中する機会となる。
- ・ 国際化されている都市であると思われるためのイメージの一つに、女性が活躍しやすい環境が兵庫、神戸にあるのではという期待がある。保育所の整備などを含め、女性が活躍しやすいイメージをつくれれば、我々としても新たなグローバル人材の確保につながると思う。
- ・ 多くの企業が集まることにより人材も誘致しやすくなるので、ぜひその辺りも取り組んでいただければと思う。
- ・ キーワードの1つとして「健康」という言葉が出ていたが、医療産業都市と企業間、産官学という形で連携できるような共通の目的・テーマを持つことによって、いろんな交流を深めることができる機会があればと思う。
- ・ 例えば、先日、日本イーライリリーとアシックスとの間で、社員の健康増進のためのランニングイベントとして社員同士が異業種間の交流ができる会を開催したり、国際女性デーの日には、日本イーライリリーとネスレとで社員同士の異業種交流を開催した。兵庫・神戸のブランディングに重要となるキーワード・テーマを戦略的に用いて交流することにより、この地域には色々なことがある、刺激があるということが発信できるのではないかと思う。
- ・ 兵庫県は実際に働きやすいと思うが、保育所の整備や学童保育、特に小学校3年から4年に上がり学童保育がなくなった際に、子供を預けられるような場所の整備は、まだまだ課題ではないかと思う。

(委員)

- ・ 県立工業技術センターやひょうご産業活性化センターでの取組が点になっている。中小企業には得意な分野がある。オープンイノベーションの時代だから、そうい

うものを出し合って、営業戦略や製品開発戦略などをつくるために、まとめ役的に工業技術センターとか産業活性化センターが取り組むと、良いものが生まれるのではないかと。今は点だけで終わっているものを線から面にするために、何か工夫ができないか。プラットフォームづくりというのが、これからの一つの方向としてあるのではないかなと思う。

(委員)

- 兵庫県と福岡県は全くフェイズが違う。福岡市は人口が増えているが、福岡地域だけが人口が増えているのであって、県全体の地域で増えているわけではない。
- 兵庫県は、神戸を中心に南の沿岸部に人口の8割位が集中している。新しい地域区分を考えるとの話があったが、人口が集中している所と、それ以外の所では、政策を分けた方が良いのではないかなと思う。

(委員)

- 建物が建ったり、高速道路が発展するのはいいが、そのせいで田園風景が壊れている。兵庫県に残る田園風景を守り観光資源にしていく。具体的には、出石、丹波、篠山、三田というルートを観光資源にすることが進められているが、その地域にある良い風景を残して、サイクリングロードにすることも考えられる。
- しまなみ街道も世界中からサイクリングに訪れている。都市化が進んで工業発展した時代だからこそ、昔から残っている風景を大切に守っているということが世界的にも売りになると。兵庫県もそのような財産を生かしてほしい。

(委員)

- 兵庫県の地域の中でも、状況や条件が大きく異なっている。佐用町は県で一番人口が減少している町だ。私も地域を担ってくれる若者を育てたいと一生懸命やってきたが、道路ができ、交通機関も便利になっていくと、20代ではなく10代くらいから、都市部の、例えば姫路とか岡山の学校に通学し、都市部の大学などに進学、就職する。
- これまで地方は、土地や山林をしっかりと守りながら、それが一つの生活の基盤になっていたが、今は農業にしても林業にしても、生活の糧になっていない。かえって重荷になっている。
- 昔なら定年になればふるさとに帰り、家を継ぐことが一つのパターンだったが、最近はそのような形も少なくなった。また、福祉政策が非常に進み、昔なら親の面倒を見るために帰っていたが、今は、行政や福祉施設に任せておけば大丈夫と帰らない。そのため、親が亡くなると、畑じまいまでして出てしまう。若者だけではなく、高齢者も縁があり以前なら田舎に帰っていた人も帰らなくなっている。県や市でも対策を行っているが、交流人口や関係人口を増やしていきたい。
- 人口減少は、ある意味ではやむを得ないとしながら、行政コストを下げる、人口減少を緩和するという両方から、町でも地域創生戦略を推進しているが、なかなか結果が出ないのが現状だ。
- 景観なども活用しながら、ふるさとの資源、文化、歴史を新たに再生、活用していくプロジェクトや、古い建物などを更に利活用するような事業も取り組んでい

るが、時代の大きな変化に対抗できないというのが現状だ。

(委員)

- ・兵庫県は色々な観光資源があるが、インバウンドが弱い。一方、京都は人が来すぎて、最近インバウンドが減っている。表面的な人数よりは、質の深い繊細な対応で、本当に感動的な体験を提供すれば、個人旅行は口コミで行き先を決めるので、インバウンドは増えるのではないか。インバウンドの方が増えれば、地方で新しい仕事も生まれ、若い子が定着する機会になるのかなと思う。
- ・私の職場でも、10年少し前までは、女性にとって非常に働きにくい職場だったと思う。今は、女性が働きやすい職場づくりのため、色々な施策を行っている。
- ・兵庫県出身の私の部下は、結婚、出産後も、夫を兵庫に呼び、職場復帰して働いている。直近では、夫の地元へ一旦行っていたが、職場復帰の制度が非常に手厚く充実しているので、兵庫県内の実家に戻り、職場復帰したという事例もある。各企業がこのような制度を整えていくことが非常に重要だと思う。

(委員)

- ・但馬や丹波、淡路には、県外から人が流入している。本来は、県外に出ても県内に戻る人を育みたいが、なかなか県外から県内に戻ってこられないのが現状だ。
- ・農水省が発表した食料自給率は過去最低だった。県内の地域では淡路以外は100を超えていない。食の多様性を生かすことは、田園風景を守ることだと思う。
- ・全国から来る人は、姫路城だけ見て帰るが、京都や奈良に比べて数では負けるものの兵庫の国宝や施設は結構あるので、兵庫の魅力として発信してほしい。
- ・JAの直売所は約50施設あり、年間約800万人の利用がある。県内の食を守るという意識を持ってもらうために県とともに取り組んでいるが、なかなか浸透しない。県民に食料自給率を意識してもらい、県内の食を守るということに集中してもらったらよいと思っている。
- ・県内の子ども食堂やフードドライブ等を活用したコミュニティ活動が盛んである。県外から来る人が、本当に何の鎧もなく入れるような施設も結構あると思うので、このような取組を広めてもらえるような機会があればと思う。

(委員)

- ・地域創生戦略の第一期は上手くいっていない。国としても、東京一極集中を押さえ込めていない。一期目は、ややばらまきの展開したが、二期目に、どのような深化を目指しているのは、政府のホームページを見ても今ひとつわかりにくい。次のステップは、地域創生戦略に、ある種の空間戦略を落とし込んでいくことが必要ではないかという気がしている。
- ・兵庫県には、個性的な地域がたくさんある。その意味では、既に長期ビジョンでも、地域で面白い動きが展開されているし、全国的に見ても成功しているのは、島根県や高知県、鹿児島県である。
- ・企画委員会でも、東京対兵庫では難しいけれど、東京対関西では対抗軸になるという発言があった。今後どのような文脈でということもあるが、考えていくべきことだろう。

- ・巨大なエンジンを動かさないと東京には対抗できないということははっきりしている。そういう意味で、関西広域連合があるが、兵庫県がこれまでとは違う広域的な視点を持ちうるのか。例えば、大阪メディアもあるし、旧阪神工業地帯もある。あるいは京阪神の三大都市圏は、昔から世界的にも三つ子都市ということで評価されている。地域創生戦略の中で、兵庫県から、この辺りに対してどのような提案ができるのかということも議論するべき時に来ているのではないか。広域連携、連携の構図というの、やはり盛り込んだ姿が必要ではないかという気がする。

(知事)

- ・多面的なご議論に感謝する。しかし、多面的ということは決め手がないということだ。地域創生戦略がいかに難しいかということを表していると思う。
- ・次期戦略の目標をどうするのかということが非常に重要だ。目標の設定の仕方、県民が、よしやろうかと思うか、思わないかということにつながる。
- ・「兵庫2030年の展望」で、2030年の県の姿を一応前面に打ち出したので、これとの関連はしっかり持ちながら、地域創生戦略は、いわば「兵庫2030年の展望」の実施計画のような位置づけをしてもいいのではないか。その意味で、「戦略ではなくて戦術という発想も重要」という意見があったが、施策に落とし込むという観点を入れながら、戦略を検討するべき必要があるのではないかと思っている。
- ・県民から見たら一番わかりやすいのは人口だ。人口は減るより増えた方がいいし、社会増になった方がいいので、トータルとしてどうやって人を集めるか。いい所だから行きたいという集め方もあるし、あそこに行くとな経済的に利益があるから行った方がいいという集め方もあるし、信念としてここで生活がしたいから来たいという住み方もある。人を集める戦略を網羅せざるを得ないのではないかと思う。その際に、兵庫というイメージがつかみにくいとよく言われるので、地域区分をどうするか、区分ごとにイメージをつくるのかということを含めて、検討してみる必要があるのかなと思う。
- ・人口が減っても豊かな暮らしを実現するのが目標だとすれば、他所で頑張ればいいと思っている人は対象にしないという選択もあり得るし、何でもいいから人口を増やせばいいという選択もあり得る。この辺も充分見極めていく必要があると思うが、なぜ社会基盤整備が進み、豊かな生活基盤が出来ているにもかかわらず、出て行くのかということも、しっかり分析して踏まえる必要がある。
- ・一番典型的なのは淡路だ。淡路は出た人は戻ってこないが、一度でも生活した人は住みたがる。地域の魅力を打ち出し、移住者が移住者を呼ぶ地域づくりをしていくことも一つの有力な戦略だ。
- ・今日いただいたご意見を踏まえながら、次の会議には少し整理して、ご意見を伺えるようにしたい。